

第2回 (仮称) さいたま自転車総合利用計画検討懇話会 議事要旨

日時：平成26年9月18日(月) 10:00~12:00

場所：浦和コミュニティセンター9階第15集会室

【第1回検討懇話会における指摘と対応】

委員 7ページの自転車のコストについて、モデル図では駐輪場の値段がゼロとなっている。だが、21ページを見ると、鉄道を利用した移動が多く鉄道駅の駐輪場を使っている人が多いのではないかと考えられる。駐輪場の値段も整理されていたかと思うので、自動車の方で駐車場代を記載するのであれば同様に表記すべきか考える。また課題全体として自転車利用者の視点から記載されているように感じる。歩行者や自動車運転手から見て自転車をどのように感じられているかが課題の中にちりばめられてくると、より具体的になるかと考えられる。

事務局 駐輪場代金については、市営駐輪場を1年間利用した場合の想定料金を7ページの下部の注意書きに示したが、表現については今後検討する。

また事務局としても市民の意見は重要と認識しており、10月にアンケートを実施する予定である。内容は2種類あり、1つは市民の皆様に自転車に対してどのように思っているかを問うもので、もう1つは自転車のヘビーユーザーに対してニーズを問うものとなっている。

座長 アンケートの結果は、現状把握と課題に追加されるということか。

事務局 施策に対する部分も含めて、追加予定である。

【計画の将来像と目標について】

委員 63ページの計画の柱について、前回の検討懇話会で「まもる」の部分では、“家族をまもる”、“保険でまもる”といったもう少し広い概念を含む形で意見が出たかと思うが、乗り方という文言に全て含まれているという認識か。

事務局 今はそれらの部分が一つの文言に含まれてしまっているので、文言については精査する。正しい利用の仕方、という表現になるかと考えている。

オブザーバー 可能であれば“自転車利用者にも責任がある”、ということがわかるような文言を追加していただきたい。また自動車と同様に、車両を貸す側にも責任があるということ伝えていきたいと考えている。

事務局 ご意見を参考に記載方法を検討する。

委員 61 ページの 3-1 の (1) で、5km 未満の移動では最も速いとして、重視するという位置づけになっているが、前段はで環境や健康面などでの優位性を記載しているので、そうした面での優位性を示した上で位置づけした方が良いと考える。生活や通勤であれば 5km 以内の近距離での優位性が示せると思うが、レクリエーションであれば長い距離を自転車で使うという使い方もあるだろう。計画の柱でも「たのしむ」という柱があるのであれば、いろんな使い方を考慮して、使い方によっては長い距離の移動も促進するという書き方にすべきではないかと感じた。

委員 (1) で 5km と書くのは適切かと思う。一方で、速いという部分については書き方を修正すべきか考える。レクリエーションについて記載するのであれば (3) に新しく項目を起こすことも考えられる。キャッチフレーズについても、“風を感じる空間づくり” とあるが、わかりにくい。「風を切る爽快さ」を入れてはどうか。

委員 5km というところが少し気になった。資料の 6 ページで、5km 以内の優位性が述べられているが、整備を進める上で 10km の通勤圏であれば自転車が最も速く到達できるように整備することを目指し、目標値を設定しても良いのではないか。コペンハーゲンでは、時速 20km で走れば信号で止まらずに進めるようにタイミングが設定されており、自転車が利用しやすくなっている。そこまで視野に入れて整備するのであれば、具体的な 5km の距離は見直すべきかを感じる。

座長 6 ページの図は良く出てくるが、近い距離では自動車より速いので自転車を使いましょうという説得のために使われるので、委員からの指摘が出た 5km という部分について見直すことも考えられる。

また 61 ページでは、経済的な面の記載が少し抜けているかと思う。

事務局 さいたま市では 5km 未満でもかなり自動車が使われているというところがあり、そこを転換していただきたいというところで (1) を設定していた。またその他のメリットについては、(2) のところで健康と環境のメリットを記載しているので、ご指摘のメリットについてはここに入れるかどうかを検討したい。

風を感じる空間、という部分にご指摘があったが、レクリエーション等で郊外の緑地エリアを走ることを想定して記載したが、文章は精査する。

6 ページの図では、自転車での移動が 15km/h という理想的な状況を想定して記載されており、海外のようにしっかりしたネットワークがあるわけではない日本では、この理想に近づけるということも必要ではないかと感じている。

座長 交通の研究の分野では、交通は派生需要なので移動時間はできるだけ短い方が良い

という考え方があり、そういう背景があってこの図がよく使われていた。ただレクリエーションにおいては短い時間が良いわけではなく、そういう意味では日常利用とは別のものとなる。そのあたりをうまくまとめたい。

もう1つ、63 ページでは、レクリエーションは根源需要として楽しむということかと思うが、その他の通勤や買い物での移動中も楽しめるような施策、楽しむという要素が全てに関わってくるような整理をしていただきたい。

委員 61 ページの誰もが、という点で身体障害者の観点もあるかと思う。国内でもタンDEM自転車の利用も進んでいるので、そうした面を検討してはいかがか。また車いすに自転車が迷惑をかけている部分もよく指摘されるので、そのあたりも解消につながるようにしたい。

ルール・マナーの遵守とあるが、マナーは遵守するものなのか、と考えている。言葉の使い方であるが、精査していただきたい。

コミュニティサイクルによる周遊とあるが、駐輪問題を解消するための代替の交通手段かとも思うので、「たのしむ」のみに入っていることに違和感がある。

「はしる」の取り組みで、今の記載はハードの部分のみになっているが、他の委員もご指摘のように信号のコントロールなどソフト面も記載した方が良いかと思う。

事務局 車いすについては、放置自転車で移動ができないという面もあろうかと思う。そのあたり表現について精査する。

ルールとマナーについての書き分けについても、しっかり精査する。

コミュニティサイクルについては周遊を活性化させたいという思いがあり、今は「たのしむ」で記載したが、他の柱にもつながる部分があるかと思うので記載方法を検討する。

「はしる」の取組みでは、ネットワークのハードも重要だが、それをしっかりつなげていくことが重要であり、ソフト面も含めて記載する。

委員 確認だが、「たのしむ」・「はしる」・「とめる」・「まもる」、の順番が一部異なっているため、統一していただきたい。

またキャッチフレーズで4項目あり、計画の柱も4項目あるが、そうした部分の整合性をしっかりとしていただきたい。キャッチフレーズでは健康に関する記載があるが、計画の柱の部分では無いといったことが無いようにしていただきたい。

健康については、レクリエーション的な楽しみをしながら健康増進につなげるのがよいかと思うので、「たのしむ」と健康をリンクするのが良いと考える。

また子どもたちをみていると、小学生はマナーを守っているが、中高生はそうでもないように見受けられる。警察へのお願いになるが、指導をもう少し自転車の方に

振り分けていただきたい。

スポーツを通してルールを守ることを教えている中で、交通でも同じだという風につながっていきたいと考えている。ルールを守るまちさいたま、というイメージにまとめられると良い。

事務局 4つの柱では自転車が利用しやすくなるための手法を書いており、キャッチフレーズではその手法によって実現する効果を書いているところであるので、それらがしっかりつながるように表現を精査する。

中高生のマナーについてのご指摘があったが、実際に事故割合を見ても中高生の割合が非常に高い。マナー改善に向けては警察の指導だけでなく、地域住民や学校と連携して行うことも重要かと考えているので、そのあたりも記載していきたい。

座長 この計画については、市民の皆様にも読んでいただきたいと伺っているが、そういう意味では計画の名称自体やイメージについても、ももうすこし親しみやすいものが良いかと思う。良い意見があれば、ご発言いただきたい。

委員 観光の観点から言うと、広くいえば経済波及効果や地域の活性化の1つとして観光がある。さいたま市では、インバウンドとしてツール・ド・フランスさいたまクリテリウムを手がけ、市外から多くのお客様にきていただいた。市内の観光資源がどれほどかということもあるが、その点に関しては現在、広域観光連携を考えており、富山や金沢からさいたまに来ていただくことを考えている。そうすると鉄道事業者にもご協力いただいて、鉄道駅から自転車にすぐ乗れるということが考えられるのではないか。

サイクルトレインとして自転車を電車に乗せて移動するということ、高崎から下仁田の間でやっている事例がある。「たのしむ」というところに観光の要素をちりばめていただければと思う。

委員 観光の件では、西武鉄道でもサイクルトレインを時々している。バスの中に自転車を簡単に持ち込めるようにということもあって良いかと考えている。

観光に関しては、さいたま市は文化と歴史のあるまちであるということをいつも強調している。そうした部分を折り込んでいただければと思う。

事務局 「たのしむ」の視点で観光については記載していきたい。イベントについては、世界的なイベントとしての来客も意識しておりしっかり記載していきたい。

サイクルトレインについて日本で実施しているのは、乗客のかなり少ない路線であり、日曜日限定なども多い。さいたま市内で実現可能な区間があるかどうかも含め検討していきたい。

バスについては、例えば茅ヶ崎では自転車を2台ほどバス前面部に取り付けるとい

う取組みをやっている。バス停留所の駐輪所などと併せて乗継を意識した施策を検討したいと考えている。

レクリエーションルートの設定や沿道整備についても、歴史や文化の地域資源を活かす形で設定したいと考えている。

委員 座長からキャッチフレーズについてのご発言があったが、“人と自転車が主役”というのは何を意図しているのかがわかりにくいと感じた。自転車利用者は歩行者のルールでよいと誤認している人が多く、そのために事故が起きている部分があるかと思う。このような書き方では誤ってそうした感じ方をされるのではないかと懸念する。

事務局 自転車の計画なので自転車が主役ということが前提としてあり、併せて周囲の人に対しても良い環境となるようにという意味を込めてこのような表現とした。ただし、ご指摘のとおり誤解を与えかねない表現なので、表現は精査する。

委員 資料3の41ページで、自転車事故の発生状況を整理いただいているが、高齢者の事故は死亡する割合が卓越しているのが特徴かと想定されるので、そのあたりも確認していただきたい。

事務局 事故の程度については重要かと思う。現在委員からご提供いただいているデータは、事故件数のみとなっているので、追加のデータ依頼をし、事故の程度について確認する。

委員 64 ページのところで、個人が健康の増進で幸せになるということもあるが、企業にとっても行政にとっても医療費が安くなるという部分があり、それを前面に出しても良いと感じる。また観光があったが、市内の商業施設の活性化といった部分も入れて良いのではないか。

座長 61 ページで三者協働とあるので、行政や企業についても記載があっても良いかと思う。

事務局 健康では行政コストの削減につながり、観光により市内の商店や企業が潤う部分もある。「くらしはこう変わります」、は市民の生活目線で記載しているので、「まちはこう変わります」、の部分で行政や企業のことを記載できるように検討したい。

座長 キャッチフレーズや計画の名称については、今この場ですぐに出るものではないかと思うので、後日お伝えいただければと思う。

事務局 本日いただいた意見を受けて、資料を修正した上で皆様にお示ししたいと考えているが、各立場で可能な限りの施策をやっていきたいと考えている。

さいたま市としてこのような施策をしていく、と市民に訴えかけるためには、まち構想のイメージが一番重要になるかと思う。その中では、景観がきれいなまちとい

うことがしっくりこない部分がある。

また観光や企業についての要素を入れたいと考えているが、ここの部分について皆様に検討いただきたい。今この場でなくとも、後ほどメールやお電話でも結構なので、ご意見いただければ、と考えている。

委員 「まちはこう変わります」とあるが、駅前の商店街の空洞化が問題になっており、そのあたりを活性化するための文言が必要かと思う。ただ買い物をするだけでなく、スタンプ制度を導入するなど楽しんで移動できると良いかと思う。県の方ではミニストップで空気入れが使えるようになっているが、他のコンビニでも自転車のちょっとした整備ができるようになればよいと考えている。

委員 最後の64ページを見て、これを今出さなければいけないのかな、と感じた。こうした記載はアクションプランで色々検証していくなかで出て来るのではないかな。最初から活字で固める必要はないのではないかな。

委員 その意見に賛成で、施策や取り組みを具体的にすればするほど経営判断が必要になってくる。大きなさいたま市のまちの絵があって、そのなかで取り組みや役割が記載されていれば、民間事業者としてどのように取り組めば良いかということが見えてくる。

委員 イメージの部分だが、くらしとまちの切り分けは良いかと思う。ただ「環境に優しい」と「歩行者に優しい」はソフトウェアで、「景観がきれいなまち」はハードウェアではないだろうか。ビジュアルで訴えることについては賛成する。

事務局 「景観がきれいなまち」については、放置自転車の削減を意識していた。そこが伝わらないということについては修正する。

委員 さいたま市が作るものなので、さいたま市の方々目線で打ち出す必要はわかるが、観光などで外から来る来訪者の行動がこう変わる、勤務先に来る人の行動がこう変わる、といった様々な主体の行動の変容があると考えている。まず主体を考えて、それぞれの主体の行動を考えていき、最終的にそれらをイメージとしてまとめる、というプロセスをとってはどうか。

座長 別の市の例で、最初に市民という定義を考えた際に、外から来る人も市民と定義したことがあった。そのあたりも少し検討していただきたい。まちの絵があった方が、市民理解の観点からは良いと思う。

委員 イメージの図を市民にどのように見せていく予定なのかを知りたい。絵にしてポスターにするのか、集約してマークにするのか、広報方法についても考えたい。伝わりやすさを考えるためには、何によってどのように市民に伝えるかも重要となる。

事務局 本計画については、今年度と来年度の2カ年で作成するが、まずは骨子を固めて内

容を詰めていくということになり、現段階でキャッチコピーを考えるというのも難しい面がある。様々な施策を見ていただいて、ご意見をいただける場面があればキャッチコピーも整理しやすいかと思う。市民の皆様にご覧いただくためには1・2ページにまとめる必要があると考えている。

事務局 自転車に特化して、市民の立場で色々見てみようということは、市長がやりたいことでもある。シンボルマークを作って市民にどんどん訴えかけていくということも十分あり得ると考えている。いろいろなお立場の皆様から多様なご意見をいただいたものを受け止めて、良いものを作っていきたいと考えており、将来に向けて発展させていきたいという意気込みがあるということをご理解いただきたい。

座長 皆様からいただいた意見をふまえ、事務局で改めて再整理し、次回の会議でお示しするというところで進めさせていただく。

以上